

## 株主メモ

### ■ 証券コード

ヘラクレス 4875/NASDAQ MNOV

### ■ 決算期

12月31日

### ■ 基準日

2月20日

### ■ 株主総会

3月30日

### ■ 売買単位

100株

### ■ 株式事務取扱機関

大阪府大阪市中央区北浜4丁目5番33号  
住友信託銀行株式会社

### ■ 事務取扱場所

東京都府中市日鋼町1番10号  
住友信託銀行株式会社 証券代行部

### ■ 株主名簿管理人

American Stock Transfer & Trust Company  
(アメリカン・ストック・トランスファー・アンド・トラスト・カンパニー)  
6201 15th Ave. Brooklyn, NY 11219, USA  
電話 +1(718)921-8217  
E-mail ssilber@amstock.com

本株主通信には、業績予想等に関する記述が含まれておりますが、実際の業績は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。



## 株主通信 Vol.1

決算のご報告 (2006年1月1日~2006年12月31日)

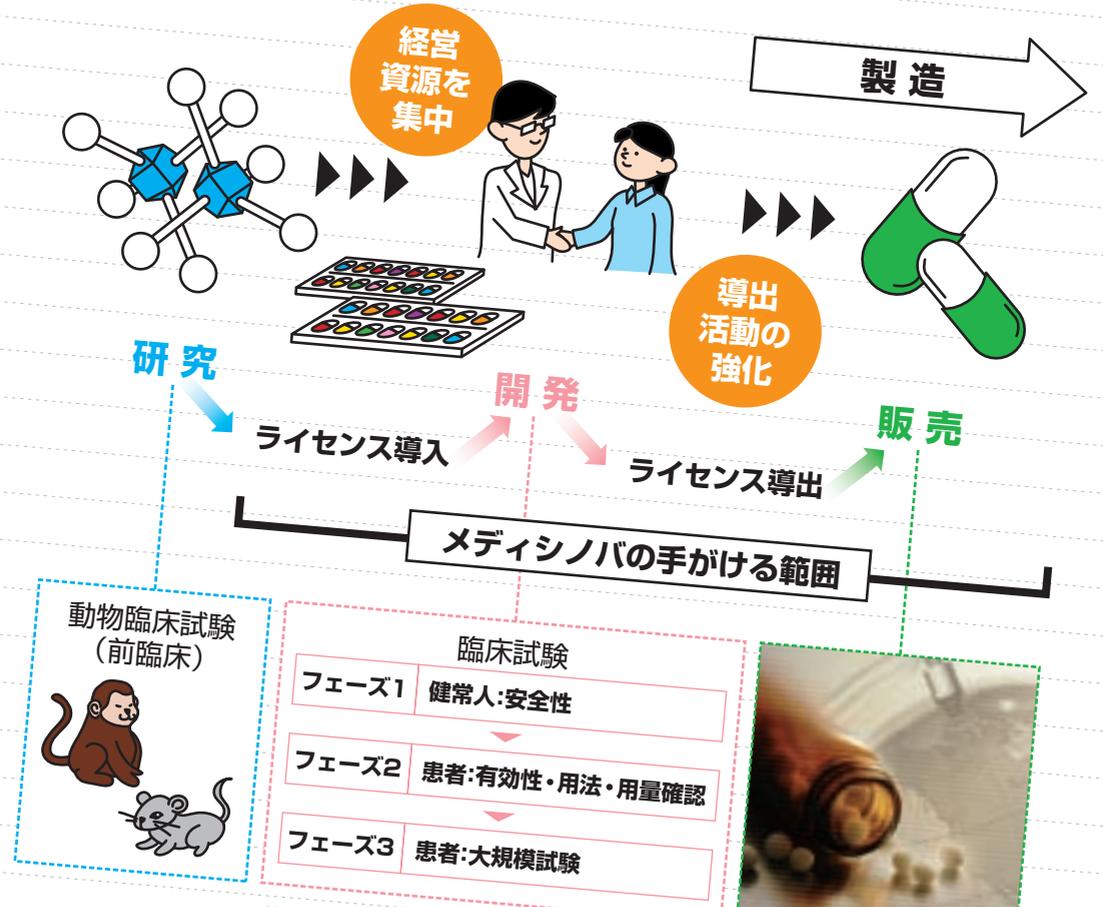
CONTENTS

- メディシノバって何の会社? 01
- 決算ハイライト 03
- 社長インタビュー 04
- NEWS FLASH 09
- メディシノバをもっと知っていただくために 11
- 要約財務諸表 17
- お答えします 19
- 経営陣紹介 20
- 株式の状況 21
- 会社の概況 22

# メディシノバって何の会社?

メディシノバは、経営者が日本人で米国に本社を置き、市場規模の大きい欧米をはじめ日本を除くアジアを主なターゲットとして、十分に有効な治療法が確立していない疾患を対象とした医療用医薬品を開発しています。主に日本の中堅製薬企業から、既に動物レベルでの安全性、有効性が実証された医薬品候補を開発する権利を買い(ライセンス導入)、人間にとって安全で有効かどうかの臨床試験を行い、それを製造・販売する権利を買ってもらう(ライセンス導出)ことに加え、将来的には、収益性の高い自社販売をすることも目指しています。医療用医薬品が市場に出るまでの研究、開発、販売の全過程ではなく、開発のみに特化しているため、研究や製造の機能を持たないのが当社の特徴です。日本の優れた創薬技術を海外で商品化する際に障壁となっている慣習・言語の違いや人材・ノウハウ不足などを解決すべく、医学と欧米の医薬品業界に精通し、開発に必要な専門知識と経験を持つ当社が欧米で臨床試験を行うことで、効率良くスピーディーに製品化を進めます。現在、市場性の高い医薬品候補の開発に経営資源を集中し、数年後には画期的な新薬を持つ製薬企業となることを目指して邁進しております。

## 薬剤が市場に出るまでとメディシノバの事業領域



※一つの薬の開発費用は平均150~200億円

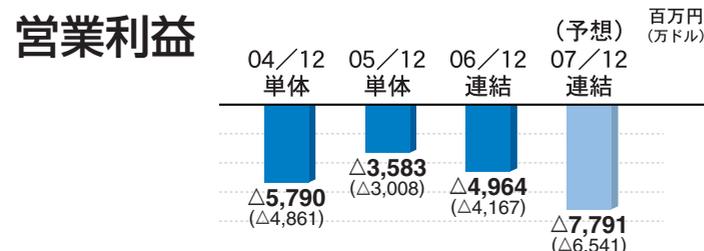
※メディシノバ (MediciNova) とは Medicine (医薬品) と Nova (新しい) を組み合わせたものです。

# 決算ハイライト

※△は損失を示しています。

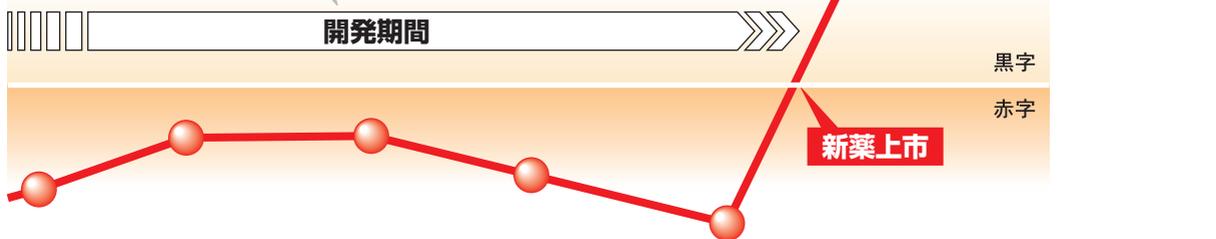
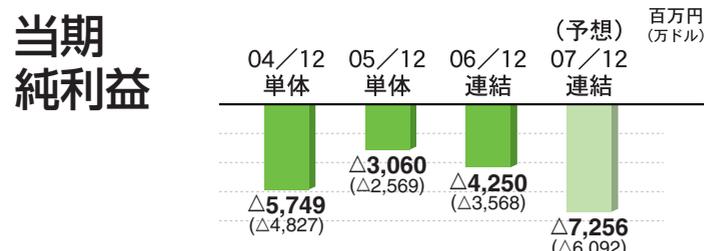


開発管理サービス契約による活動が来期には発生しないことが見込まれるため、売上高はないと予想しております。



引き続き、各開発プロジェクトの進捗に伴い、研究開発費の増加が見込まれるため、損失が増加となる予想です。

当社の企業価値を最大化するため、有望な製品候補のライセンス導入を行い、パイプラインを拡大・多様化すると共に、ポートフォリオのそれぞれのプロジェクトを進捗させることに注力してまいります。



注) 当社のビジネスモデルは、売上・利益は、基本的にライセンス導出および自社販売を行った時点で計上されます。現状はすべての製品候補が開発段階にあるため、赤字となります。当社は米国企業であり、決算は全て米ドル建てで行っておりますが、日本の投資家の皆様ご理解し易いよう、本資料は円ベースで記載しております。三菱東京UFJ銀行の2006年12月29日現在の対顧客電信物相場から算出した中値1ドル=119.11円で円換算しております。

# 社長インタビュー



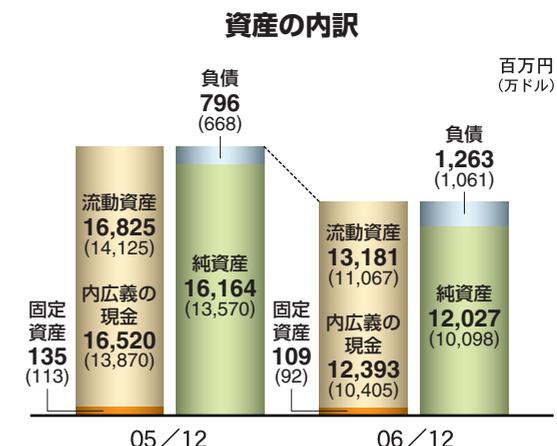
我々の使命は、日本で生まれた医薬品候補を医薬品として世界に普及させ、有効な治療法がなく苦しんでいる患者さんのお役に立つことだと思っています。

取締役会長兼社長、CEO (最高経営責任者) 岩城裕一

## 資金調達状況と開発パイプラインの進捗状況について教えてください。

2006年12月末日の段階で、104百万ドル(約124億円)の資金があり、2007年2月には米国で100万株の公募増資を行い、約13億円の資金調達を行いました。本資金で現在のパイプラインを進捗させるには十分と考えておりますので、状況に変化がない限り、資金調達は必要ないと考えています。パイプラインの進捗は順調です。2007年に予想されるイベントは、次のとおりです。MN-166(多発性硬化症)のフェーズ2の結果が3月中にわかる予定です。また、気管支喘息を対象にしたMN-221(気管支喘息急性発作)のフェーズ2の結果とMN-305(不眠症)のフェーズ2の結果が、夏頃にひかえております。

(その他、詳細はP11開発パイプライン進捗状況をご覧ください)

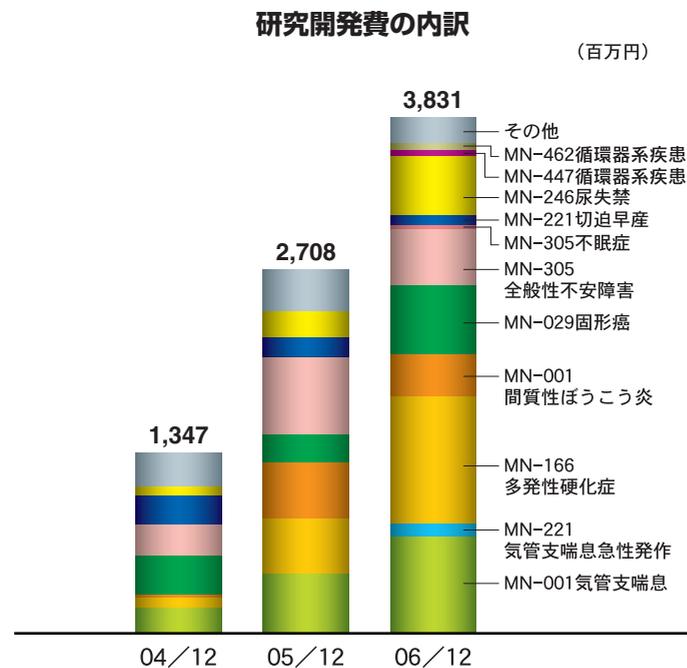


## 製薬業界は再編が進んでいるようですが、今後の御社への影響はどのようになるのでしょうか。

日本の中堅製薬会社は、規模の面で欧米の製薬会社に比べて小さい上に、主戦場で

ある日本の医薬品市場は全世界の約11%と、欧米の約1/7の市場規模です。今後ますます日本の中堅製薬会社の再編が進展すると共に、最大の市場である欧米市場での展開を進めざるを得ない環境です。そこで、欧米市場での開発ノウハウが豊富且つ日本語対応可能な当社の重要性が、さらに高まっていくと考えております。

### 今後の経営課題と新たなライセンス導入の計画、開発期間短縮の施策、導出計画など成長戦略についてお聞かせください。



研究開発費の主たる増加要因は開発進捗によるものです。開発が後期段階になればなるほど臨床試験も大規模となり、研究開発費は大幅に増加します。これは当社事業の性質上によるものです。

くどいようですが、経営課題は常にポートフォリオのそれぞれのプロジェクトを進捗させることです。理想的には、自社でフェーズ3まで終わらせる完結型が企業価値を最も高めることと認識しています。もちろん、ライセンス導入は常にオプションの一つとして考えておりますので、条件さえ満たされれば、前向きに検討しています。開発期間を短縮することよりも、開発を間違いなく進捗させることに重点を置いて経営をしております。もちろん、開発を効率的に進めることが重要であることは、自明の理です。すばらしい薬剤の種は、いかなる状況においても探しておりますので、ライセンス導入の検討は常に頭の中にあり、チャンスをうかがっています。

### 近年、新規化合物の不足に伴い、今後の獲得が困難になっていくことも予想されますが、薬剤の種はどのような手法で獲得していくのでしょうか。

当社のビジネスモデルである日本の中堅製薬会社から医薬品候補を導入し、欧米で開発を行うことの意義は、日本の中堅製薬会社にとってますます重要性が高まるものと認識しております。医薬品候補の導入において、日本人が日本の慣習を踏まえた上で、日本語での対応が可能な当社の存在は、欧米での展開を模索する日本の中堅製薬会社にとって魅力的な存在であり、有力な新規医薬品候補の導入は、今後とも十分に可能であると考えます。

### 開発を進めていく中で、リスク要因としてはどのようなことがあげられますか。

一番大きなリスクは、臨床試験を実施した医薬品候補に、想定したとおりの効能がないという結果が出ることです。その他、下記のリスクが想定されます。

- ① 先行して同程度以上の効果を持つ新薬が承認されること
- ② 開発途中で資金不足に陥ること
- ③ 想定外の副作用が発現すること

通常の新薬開発においては③の副作用のリスクが非常に大きいのですが、当社導入の医薬品候補は、日本の中堅製薬会社が力を入れて試験済みの候補品が大半ですので、当社における本リスクは低いと考えております。



## Q 開発に資源を集中していく中で、研究開発要員の増強は考えているのですか。

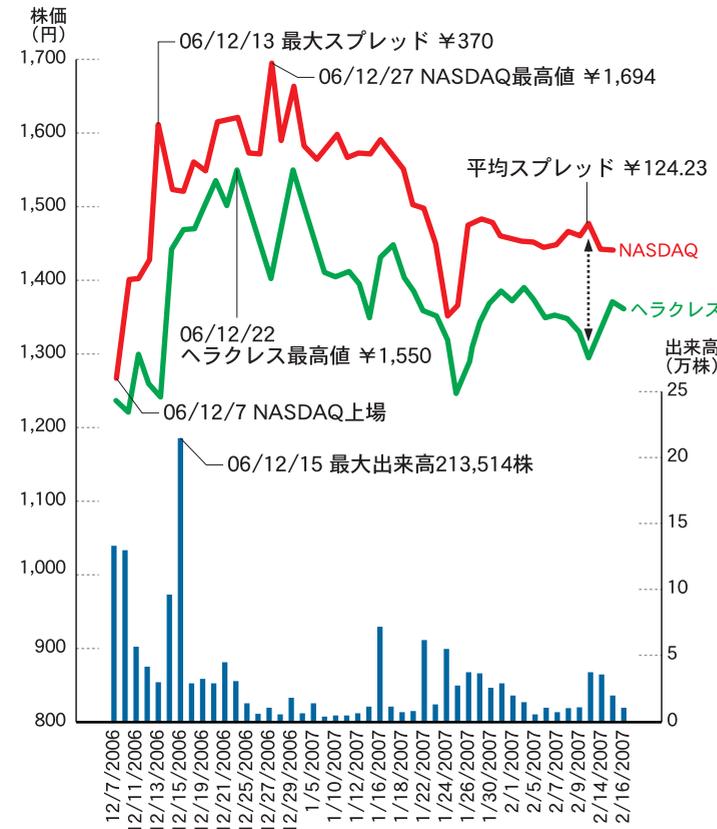
当社は、導入した医薬品候補の臨床試験の計画、管理を行っておりますが、臨床試験の実施については、臨床試験受託機関（CRO）にアウトソーシングしています。このようなビジネスモデルによって、全従業員26名の企業が10本の新薬開発を同時並行で進めることが可能となっています。従って、今後とも導入する医薬品候補が増えたからといって、人員を大幅に増強するといったことはありません。

## Q NASDAQに上場したことによる状況の変化はどのように捉えていますか。

当社は、2005年2月に米国企業として初めて日本市場に単独上場しました。その後、日本のマーケットではバイオバブルが崩壊し、当社の株価も下落傾向が続いておりました。この間も、当社は積極的なIR活動を展開する中で、米国機関投資家の当社株式への投資ニーズが非常に強いと感じました。しかし、米国機関投資家から見ると、当社は日本にしか上場していない外国株のような存在で、本国（米国）上場の必要性を強く感じ、NASDAQ上場を決意した次第です。また当社同様、売上、利益を計上していないバイオテック企業が数多く上場しているNASDAQ市場に上場することにより、当社を再評価してもらう機会を設けるという狙いもありました。実際にNASDAQ市場に上場し、興味深い現象としては、昨年12月7日にNASDAQに上場して以来2月現在まで、常にNASDAQの株価の方がヘラクレスの株価より平均して約1割以上高い値段が付いていることです。理論的には、当社株式が両市場を自由に行き来できるのであれば、裁定取引の機会はなくなるはずですので、これだけの開きがあるということは、未だ当社株式の市場が完全にはできあがっていないということだと理解しています。

一番大きな問題は、両市場共に流動性が高くないことだと理解しており、日米双方でのIR活動にさらに注力したいと考えております。また、NASDAQ上場時に公募・売出を一切実施しなかったこともあり、2007年2月には、米国市場でのみ100万株の公募増資を実施しました。これにより、NASDAQ市場での流動性アップを期待しています。

### ヘラクレス市場とNASDAQ市場における当社の株価比較



### PROFILE

**岩城裕一**  
取締役会長兼社長、  
CEO (最高経営責任者)

1949年9月17日生まれ。南カリフォルニア大学医学部泌尿器科学、外科学、病理学教授。1992年より移植免疫学・免疫遺伝学研究室ディレクター。取締役会長として創業設立時より事業開発、資金調達等、事業全体の統括を支援。2005年9月よりCEO兼任。日本大学医学部、同大学経営学大学院、九州大学および聖マリア学院大学などの客員教授を兼任。南カリフォルニア大学医学部にて教鞭を執る以前は、1989年から1991年にかけてピッツバーグ大学医学部外科学・病理学教授を歴任。論文審査のある学術専門誌に200件以上の論文、ならびに40冊以上の本の執筆をてがける。20年以上にわたり研究および投資戦略に関して、(旧)山一証券、(株)ジャフコ、日本政策投資銀行などの顧問を務めると共にアヴィジェン社、バイオアレー・ソリューションズ社などバイオテクノロジー企業数社の取締役を歴任する。札幌医科大学卒業。同校より医学博士号修得。

- 趣味…囲碁、スポーツ鑑賞
- リラックス法…日光浴
- 愛読書…徒然草
- 最近読んで感動した本…日米開戦の謎
- 最近気になったニュース…イラク紛争について
- 尊敬する経営者…佐治信忠、里見治、森章
- 好きな言葉…「急がば回れ」

# NEWS FLASH

in 2006

11/26  
 ライツ・プラン<sup>※2</sup>  
 (買収防衛策) 導入

11/16  
 MN-001(気管支喘息)  
 のフェーズ3  
 臨床試験開始

10/31  
 明治製菓からの  
 2つの新規医薬品候補導入

12/7  
 NASDAQ市場上場



12/11  
 英国に欧州子会社  
 (メディシノバ・リミテッド)  
 を設立

12/18  
 MN-221  
 (気管支喘息急性発作)  
 のフェーズ2  
 臨床試験開始

1/5  
 MN-001の  
 特許許可通知受理

2/8  
 MN-166  
 (多発性硬化症)の  
 フェーズ2  
 臨床試験症例登録完了

10/31  
 株式併合  
 (10株を1株へ併合)

2/27  
 MN-305  
 (全般性不安障害)の  
 フェーズ2/3<sup>※1</sup>  
 臨床試験症例登録完了

9/5  
 MN-001  
 (間質性ぼうこう炎)  
 に関するフェーズ2/3  
 臨床試験患者登録完了

3/31  
 MN-246(尿失禁)の  
 フェーズ1  
 臨床試験開始

6/13  
 新たにMN-221  
 (気管支喘息急性発作)の  
 臨床開発プログラム開始

6/4  
 MN-029(固形癌)の  
 フェーズ1  
 臨床試験結果発表

6/11  
 MN-305  
 (全般性不安障害)の  
 フェーズ2/3  
 臨床試験結果発表

## 2006年は米国での機関投資家向け説明会を以下5回開催しました。

- 3/10 リーマンブラザーズ・ヘルスケアカンファレンス(フロリダ)
- 6/12 2006年パシフィック・グロウス・イクイティズ・カンファレンス(サンフランシスコ)
- 6/27~28 ジェフェリーズ・ライフ・サイエンス・カンファレンス(ニューヨーク)
- 9/26 2006年UBSグローバル・ライフ・サイエンス・カンファレンス(ニューヨーク)
- 12/13~14 2006年RBCヘルスケア・カンファレンス(ニューヨーク)

※1 フェーズ2/3とは  
 試験計画ならびに試験目的がフェーズ2試験とフェーズ3試験の両要件を満たす場合をフェーズ2/3試験と呼んでおります。フェーズ2試験とは、フェーズ1  
 試験において有効性が期待される病気、患者を対象に、用法・用量などを検討する試験です。フェーズ3試験とは、さらに有効性・安全性を確認するために、  
 多数の患者を対象に多数の施設で行われる試験です。

※2 ライツ・プラン(買収防衛策)とは  
 平時に会社が株主にライツ(権利)を付与し、買収者以外の株主がライツを行使することにより、大量の新株が発行され買収者の持株比率を劇的に低下  
 させる仕組み。株主保護ならびに株主価値最大化のための適切な手段として広く採用されている。





# メディシノバを もっと知っていただくために ～開発中の薬と病気～

現在、8つの化合物に対応した10本の医薬品候補の開発を行っております。いずれも革新的な新薬となる可能性を秘めており、十分な治療法がなく苦しんでいる患者さんに安全かつ有効な薬として投与できるよう、開発完了へ向けて注力しています。

## 開発パイプライン進捗状況

2006年12月末時点

化合物	前臨床	フェーズ1	フェーズ2			フェーズ3		
			準備中	治験中	終了	準備中	治験中	終了
MN-001 [気管支喘息]	完了	完了	完了	完了	完了	完了	完了	完了
MN-305 [全般性不安障害]	完了	完了	完了	完了	完了	完了	完了	完了
MN-166 [多発性硬化症]	完了	完了	完了	完了	完了	完了	完了	完了
MN-001 [間質性ぼうこう炎]	完了	完了	完了	完了	完了	完了	完了	完了
MN-221 [気管支喘息急性発作]	完了	完了	完了	完了	完了	完了	完了	完了
MN-221 [切迫早産]	完了	完了	完了	完了	完了	完了	完了	完了
MN-029 [固形癌]	完了	完了	完了	完了	完了	完了	完了	完了
MN-246 [尿失禁]	完了	完了	完了	完了	完了	完了	完了	完了
MN-447/MN-462 [循環器系疾患]	完了	完了	完了	完了	完了	完了	完了	完了

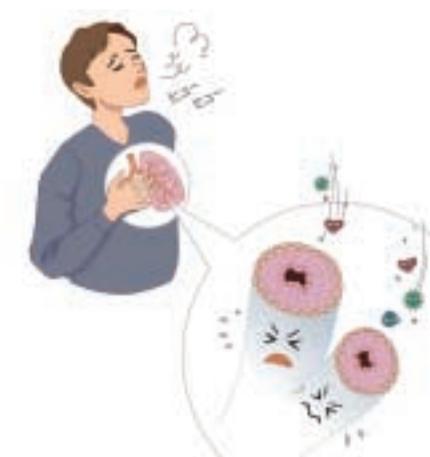
開発状況 2005/12まで 2006/12まで

## MN-001 [気管支喘息]



**市場** 喘息治療の市場は拡大し続けており、世界で約3億人\*1、米国に約2,000万人\*2

気管支喘息（以下、喘息）は“気道”とよばれる部分が急に狭くなるために呼吸が苦しくなる病気です。原因は、ダニ、ホコリ、花粉やタバコの煙などに対するアレルギー反応の他、急に冷たい空気を吸い込んだ場合、精神的なストレスなど様々です。薬による治療には気道でのアレルギー反応が起きないようにする薬（発作を予防する薬）と狭くなった気道を広げる薬（起きてしまった発作を鎮める薬）の大きく2つに分けることができます。当社が開発中のMN-001は発作を予防する薬で、気道を細く狭くする理由のひとつである気道内部の“炎症”を予防する働きがあります。日常における予防的治療と、発作が起きた場合に症状を速やかに軽減する急性発作用の薬を組み合わせる治療するのが基本です。



\*1 グローバル・イニシアチブ・フォー・アズマ誌 04/5号より \*2 米国疾病管理センターおよび米国国立心肺血液研究所調べ

## MN-305 [全般性不安障害]



**市場** 米国では100人に1人以上の約400万人が全般性不安障害と診断されています。\*



常に心配事を抱え、些細なことも気になって、落ち着かない、疲れやすい、頭痛や肩こりがひどい、イライラする、ひきこもる、眠れないなどの症状が続く状態をさし、若い女性に多いと言われていています。治療はカウンセリングと薬の投与となります。不安な状態にはセロトニンという物質を放出する神経の働きが弱まっていると考えられており、MN-305は、この働きを強めることで不安状態を改善することを狙い開発しています。また、既存の薬は、依存しやすい、薬効に時間を要する、性欲減退、不眠などの副作用があるなどの欠点や問題があり、MN-305は副作用がなく、強力で早く効果が現れることを開発コンセプトに掲げています。

\*あまり症状が特徴的でなく、うつ病など他の心の病気と一緒に患うことも多いため、全般性不安障害だけの市場をつくりだすことは困難です。

## MN-166 [多発性硬化症]



**市場** 米国では約25万人～30万人が罹患\*

寒い場所に住む20～40代の若い白人に多い難病です。人間の体は、脳から神経という組織を通して体の各部分に司令が伝達され、体全体の統括をしています。これらの情報は電気信号として瞬時に伝わりますが、神経は電線のビニルのような絶縁体でおおわれ、ショートしたりせずに、素速く司令を伝達しています。多発性硬化症はこの神経の絶縁体を自ら破壊してしまう病気です。尿をもらす、手足のしびれ、痛み、手足をうまく動かせない、目が見えない、記憶できない、憂鬱になるなど多彩な症状を示します。原因は、リウマチと同様に自己防御機構の異常と言われています。自己防御機構が働くと、腫れる、痛む、発熱する、赤くなるなどの炎症が起きます。MN-166はこの炎症を抑えることにより、神経の絶縁体の破壊を抑えることを狙った飲み薬として開発しています。



※国立神経疾患脳卒中研究所調べ

## MN-001 [間質性ぼうこう炎]



**市場** 診断されていない実際の患者数は米国だけでも約180万人と言われています。



尿を貯めるぼうこうの内部に炎症が起きたために、排尿の際に痛みや不快感、発熱を起こす病気です。最近になって、ばい菌が原因であるぼうこう炎とは全く異なる“間質性ぼうこう炎”という病気が知られるようになりました。ばい菌を殺すはずの抗生剤を使った治療では効果がないことから、喘息や花粉症などと同じアレルギーによる炎症がきっかけではないかという説が有力ですが、有力な治療法がないのが実状です。間質性ぼうこう炎は中年女性に多く見られ、昼夜区別のない頻尿、尿意切迫感などの症状があります。今のところ、症状を和らげる鎮痛剤の他には有力な薬がまだ存在しません。当社が開発しているMN-001は、ぼうこうにおいてもアレルギーによる炎症を抑える有効な治療法として期待されています。

## MN-221 [気管支喘息急性発作]



**市場** 喘息による入院患者数は2002年/484,000人、喘息発作による救急診療の受診者数は2002年/190万人(受診患者の内25%以上が入院)\*

喘息の急性発作とは、気管支拡張剤やステロイド治療が効かない、重い喘息の発作が長く続くことです。死に至ることもある緊急を要する状態のため、救急治療が行われ、入院が必要な場合もあります。吸入投与法が一般的で効果的ですが、重い喘息の場合は気道が狭くなっているので効果がありません。この場合は、静脈内投与や皮下投与を行うこともあります。当社は、MN-221の医療用静脈内投与製剤を開発しています。過去20年以上の間に、喘息の治療法は大きく進歩していますが、喘息による入院や死亡の報告数は減少していないため、安全で効果的な治療法が現在も求められています。



※米国保険統計センターのデータ

## MN-221 [切迫早産]



**市場** 米国の治療対象患者は32万人と推定されます。日本の切迫早産薬市場の約5倍の米国市場が未開拓と言えます。



正常な出産は40週間の妊娠期間を経て起こりますが、何らかの理由で22週間から36週間の間に産出することを早産と言い、この早産が起きかけている状態が切迫早産です。早産で産まれた子供(未熟児)は、栄養を十分にとれない、脳出血を起こす、ばい菌への抵抗力が弱いなどの様々な障害を抱えることがあります。従って、切迫早産になると早産が起きないように安静にすると共に、陣痛(子宮の収縮)を抑える必要があります。既存の陣痛を抑える薬は、心臓がドキドキしたり、手が震えたりといった副作用や、陣痛がおさまらない場合もあります。副作用をより抑えた注射薬MN-221は安全に人間に投与できることが確認されています。

## MN-029 【固形癌】



**市場** 米国では2004年に130万人、そのうち固形癌は約80万人と予測\*しており、多くの国で死亡原因の上位を占めています。

固形癌とは白血病のような血液の癌を除く癌をさします。よく見られる固形癌には胃癌、肺癌、乳癌、大腸癌などが含まれます。治療は様々ですが、手術によりまず癌を切除し、切除しきれない癌に対して薬による治療をすることが一般的です。通常、癌治療の薬は癌そのものを殺す作用により癌を治療するため、正常な体の機能にも副作用をもたらすことがしばしば見られます。固形癌は無制限に増殖するためたくさんの栄養を必要とします。そのため、癌のまわりでは正常な組織と比べて多くの血管が癌に栄養を供給しています。MN-029は、この血管を遮断して癌への栄養供給をストップすることで、いわゆる癌の「兵糧攻め」を狙って開発しています。



\*米国癌学会による

## MN-246 【尿失禁】



**市場** 米国の2002年の患者数は1,430万人と推定されています。\*



中高年の女性に多く、意思とは関係なく尿がもれてしまう病気です。ぼうこうは、脳や脊髄からの司令をぼうこうを支配する神経を通じて受けており、これにより尿を貯めたり、排出したり調整をしています。この脳や脊髄や神経に障害が起きたり、ぼうこうの機能に支障が起きることなどで3種に大別されますが、治療法は、水分摂取調節や規則的排尿など生活習慣改善、尿パッドや失禁用下着などによる対応、ぼうこうの収縮調節のトレーニング、収縮を抑える薬、外科的矯正などです。収縮を抑える薬は、皮肉にもものどが渇く副作用を伴うため、水分摂取調節が難しくなることが問題視されています。MN-246はのどが渇くといった副作用を伴わずに失禁を抑えることを狙って開発しています。

\*2003年12月のデータモニター発行の出版物より

## MN-447/MN-462 【循環器系疾患】



**市場** 米国では4人に1人が循環器疾患を患っており、毎年死亡数の42%、約100万人の米国民が循環器疾患によって死亡しています。

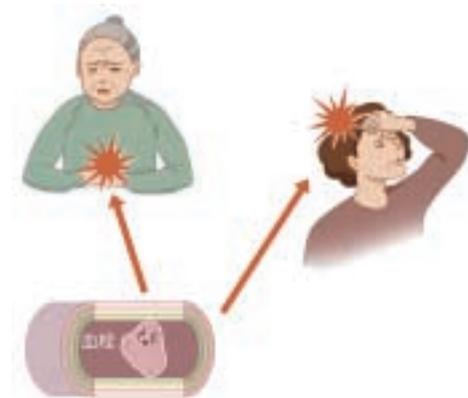
血栓の形成は、生来人間に備わった大事な働きで、血を止めるという役目を終えると自ら溶けて消えてしまいます。しかし、何らかの理由で不必要な血栓が作られ、溶けて消えないことがあります。原因は、経口避妊薬による副作用や、高コレステロール血症、糖尿病、高血圧、喫煙、肥満、妊娠、脱水傾向が誘因となる場合、また乗物の移動によって長時間窮屈な同じ姿勢でいた場合などがあげられ、心筋梗塞、脳卒中、エコノミー症候群を誘発する可能性が非常に高いと言えます。

### MN-447 血栓形成阻害剤

血栓形成の初期段階では、血小板が集まり塊を作りますが、これを阻止する働きがあります。

### MN-462 血栓融解剤

MN-462は、血栓を溶かす作用を促すとともに、形成され始めた早い時期の小さな血栓を溶かすことで血栓を予防するという作用もあります。既に病院で使われている同じ作用の薬に比べ、出血の危険が少ないことが特徴です。



# 要約財務諸表

## 貸借対照表

(百万円/単位未満切捨て)

科目	前期末 単体	当期末 連結	増減額
	(05/12)	(06/12)	
<b>資産の部</b>			
流動資産	16,825	13,181	△3,643
固定資産	135	109	△25
有形固定資産	135	103	△31
投資その他の資産	—	5	5
資産合計	16,960	13,291	△3,668
<b>負債の部</b>			
流動負債	789	1,258	469
繰延賃料	7	4	△2
負債合計	796	1,263	467
<b>純資産の部</b>			
資本金	1	1	0
資本剰余金	30,615	30,803	188
繰延株式報酬費用	△95	—	95
その他の包括損失累計額	△1	△5	△4
開発段階での累損欠損	△14,348	△18,599	△4,250
自己株式	△6	△171	△164
純資産合計	16,164	12,027	△4,136
負債及び純資産合計	16,960	13,291	△3,668

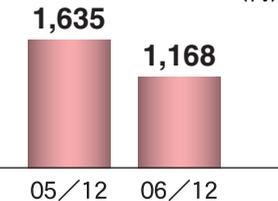
注) 米国会計基準に準拠した財務諸表の科目を一部変更しております。三菱東京UFJ銀行の2006年12月29日現在の対顧客電信直物相場から算出した中値1ドル=119.11円にて円換算しております。前期は連結の対象となる子会社が存在しておりませんので、単体としております。なお、当下期中に新規設立した連結対象子会社の当期純損益、総資産及び純資産はいずれも少額です。

### ! CHECK POINT

流動資産が36億43百万円に減少したのは、主に研究開発費の増加により支払債務と未払費用が増加したためです。また、研究開発費増加により支払債務が増加したために、自己資本比率は前期95.3%から4.8ポイント低下し90.5%となりました。

### 一株当たり純資産

(円)



## 損益計算書

(百万円/単位未満切捨て)

科目	前期末 単体	当期末 連結	増減額
	(05/1~05/12)	(06/1~06/12)	
営業収益	95	31	△64
営業費用	3,679	4,995	1,316
営業収益原価	80	17	△62
研究開発費	2,708	3,831	1,123
一般管理費	890	1,146	255
営業利益	△3,583	△4,964	△1,380
その他の収益			
受取利息	523	713	189
当期純利益	△3,060	△4,250	△1,190
前期繰越利益	△11,285	△14,348	△3,063
当期末処分利益	△14,348	△18,599	△4,251

## キャッシュ・フロー計算書

(百万円/単位未満切捨て)

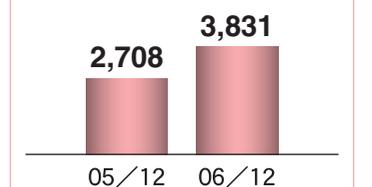
科目	前期末 単体	当期末 連結
	(05/1~05/12)	(06/1~06/12)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△2,725	△4,056
投資活動によるキャッシュ・フロー	△10,618	691
財務活動によるキャッシュ・フロー	13,209	△130
現金及び現金同等物の増加額	△133	△3,495
現金及び現金同等物の期首残高	4,621	4,487
現金及び現金同等物の期末残高	4,487	992

### ! CHECK POINT

前期中に旭化成ファーマ社との契約が満了したことや当期中にアージェンス社とのサービス契約に関する活動が減少したことなどから、営業収益が64百万円減少しました。研究開発費は、臨床試験及び関連費用が10億円増加したことや製品のライセンス費用が95百万円増加したことなどから、11億23百万円の増加となりました。一般管理費は、株式報酬費用が1億78百万円増加したことなどから2億55百万円増加しました。これらの結果、営業損失は前期を13億80百万円上回る49億64百万円、当期純損失は前期比11億90百万円の増加となりました。

### 研究開発費

(百万円)



### ! CHECK POINT

受取利息7億13百万円が主たる要因となり、6億91百万円の収入となりました。

### ! CHECK POINT

自己株式の購入による支出が1億64百万円あったことから、1億30百万円の支出となりました。

# お答えします

## Q 米国NASDAQ市場へ上場した理由を教えてください。

当社は2005年2月に大阪証券取引所ヘラクレス市場に上場し、日本のみならず海外でも積極的なIR活動を行ってきました。その中で、米国ないし海外の投資家からの当社への関心が高いことから、利便性を高める意図でNASDAQ上場を致しました。当社の株主基盤の拡大と、企業価値の強化に繋がると捉えております。また、医療のニーズが十分に満たされていない場面に、革新的な治療法を提供する可能性を持ったユニークな医薬品企業であるという当社の強みを、広くグローバル市場にアピールすることで、新規投資家の開拓による流動性の高まり、既存の日本の株主の皆様への株主価値向上を期待するものです。

当社のIR方針は、日米同時、同一開示を原則とし、情報開示の判断は日米双方の規制の遵守を基本原則としております。

これからも、あらゆる投資家、株主の皆様が当社の現状と将来の展望について適切な判断ができるよう、積極的なIR活動を進めてまいります。

### 2006年度のIR活動

- 2月17日 2005年12月期決算説明会
- 5月4日 定時株主総会開催(米国 カリフォルニア州)
- 5月12日 イー・トレード証券協賛 ヘラクレス上場会社 個人投資家向け会社説明会(東京)
- 6月12日 パシフィック・グロウス・イクイティズ・カンファレンス2006参加(米国 サンフランシスコ)
- 6月22日 日本証券業協会 証券教育広報センター主催 IRセミナー開催(大阪)
- 6月27-28日 ジェフェリーズ・ライフ・サイエンス・カンファレンス参加(米国 ニューヨーク)
- 7月22日 東京IPO・松井証券共催 IR会社説明会(東京)
- 7月25日 大阪証券取引所 IRフェア2006参加(大阪)
- 8月11日 2006年12月期中間期決算説明会
- 9月26日 2006年UBSグローバル・ライフ・サイエンス・カンファレンス参加(米国 ニューヨーク)
- 10月13日 臨時株主総会開催(米国 カリフォルニア州)
- 11月1日 グローバル・アントレポリス・シンガポール2006参加(シンガポール)
- 12月13-14日 2006年RBCヘルスケア・カンファレンス参加(米国 ニューヨーク)



尚、直近の当社のNASDAQでの株価をご覧になりたい方は、当社HPよりリンクされており、下記URLからご覧いただけます。

<http://www.medicinova.jp>

## 経営陣紹介

**岩城裕一** 取締役会長兼社長、CEO (最高経営責任者) ※P8をご参照下さい。



**リチャード・ガンマンズ** チーフ・ディベロップメント・オフィサー (臨床開発担当)

1949年6月10日生まれ。インカラ・ファーマスーティカルズ社研究開発部門エグゼクティブ・ヴァイスプレジデントを経て、2004年6月より現職。参画以来、全臨床開発プロジェクトの統括管掌を担当。25年以上の創薬開発の経験を持ち、1994年から2000年にかけてはインターニューロン・ファーマスーティカルズ社(現インデバ社)臨床研究部門シニア・ヴァイスプレジデントを務め、脳卒中、不安障害領域における臨床開発プログラムを指揮している。プリストル・マイヤーズ・スクイブ社における14年間では上席研究員職を皮切りに、毒性部門、薬理動態部門、臨床薬理部門の上級職へと抜擢され、中枢神経系臨床研究担当ディレクター、ならびに抗うつ薬セロソンのグローバルプロジェクトディレクターを務める。ジョージア大学薬学部より博士号、パーデュー大学より経営学修士号を修得。

好きな言葉: 「失敗することがあっても、大きなことに取り組んで栄誉ある勝利を獲得する方が、たいした苦労もない代わりにたいした喜びもない臆病者の群れに加わるより、はるかにいい。臆病者は、勝利も知らなければ、敗北も知らない灰色の生活を送っているのだから」—Theodore Roosevelt, Speech at the Sorbonne, Paris, April 23 1910—



**ケネス・ロック** チーフ・ビジネス・オフィサー (事業開発担当)

1957年2月10日生まれ。田辺リサーチ・ラボラトリー U.S.A社(TRL)研究部門担当 ヴァイスプレジデントを経て、2000年より参画。参画以来、事業開発、創薬および開発プロジェクトの管理・執行等を歴任。創薬、前臨床、早期臨床開発分野において20年の経験を持つ。TRLの前職インターニューロン・ファーマスーティカルズ社では、1989年に行動神経科学部門のマネージャーとして就任以来11年間様々な要職を経た後、前臨床開発担当エグゼクティブ・ディレクターを務める。初期にはヘキストルセル・ファーマスーティカルズ社の研究所において、鎮痛・抗炎症分野およびアルツハイマー病分野の研究をてがける。また、マサチューセッツ薬科・保健大学薬学部では非常勤準教授職を務める。エモリー大学医学部にて薬理学修士、博士号を修得。

好きな言葉: 「結果がわかっていることをやっけては研究とは呼べない」—Albert Einstein—



**浅子信太郎** 副社長兼CFO (最高財政責任者)

1974年6月14日生まれ。KPMG LLP会計事務所(KPMG)監査担当シニア・マネージャーを経て2005年7月より現職。就任以来、財務報告、法令順守、経理・一般管理業務を担当。KPMGでは医薬業、製造業、販売業、運送業など多方面にわたる国際企業に対し監査やビジネスコンサルティングサービスを提供。またKPMG日系企業部のオレンジ郡とサンディエゴ地域立ち上げと拡張を手がける。KPMGの前職アーサー・アンダーセン LLP会計事務所では、4年間にわたり監査や税務アドバイザーサービスを提供。南カリフォルニア大学会計学部卒業。米国公認会計士。

好きな言葉: 「明日死ぬかのように生きなさい。永遠に生きるかのように学びなさい」—Mahatma Gandhi—



**岡島正恒** 東京事務所代表、副社長

1968年1月1日生まれ。大和証券SMBC株式会社事業法人部上席次長を経て2006年9月より現職。大和証券SMBCでは、インベストメントバンカーとして、主にバイオベンチャー、メディア、通信、IT業界を担当。各種ファイナンス、M&A、IPO等において7年以上の経験を持つ。1996年から1999年にかけて、住友キャピタル証券株式会社市場営業部では、事業会社の資金運用ニーズに合わせ、仕組債をオーダーメイド組成して販売していた実績を持つ。また、1991年から1996年にかけては住友銀行(現三井住友銀行)にて、支店業務、システム開発部、証券企画部を歴任。

東京理科大学理工学部経営工学科卒業。社団法人日本証券アナリスト協会検定会員。

好きな言葉: 「そこに山があるから」—George Mallory—

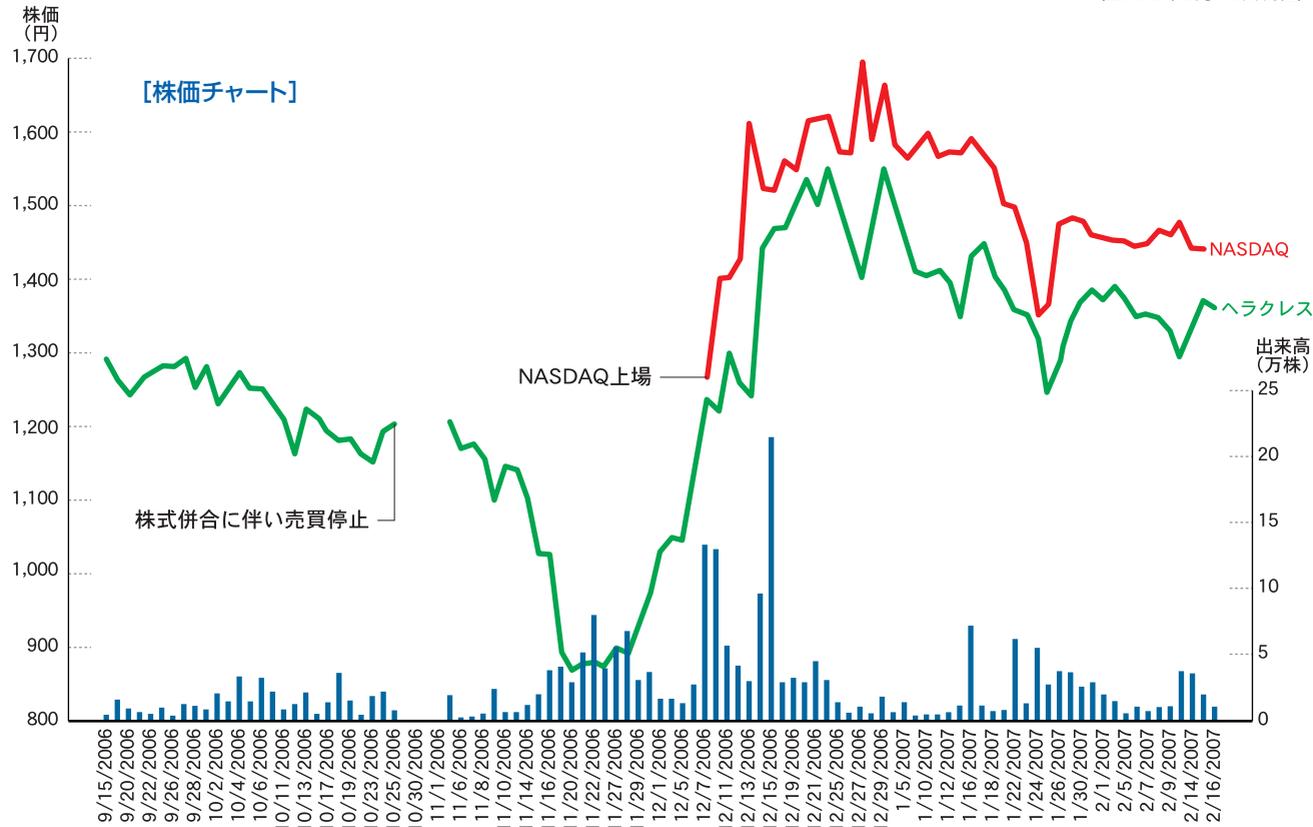
# 株式の状況

発行可能株式総数	20,000,000株 (2006年12月31日現在)	純資産	120億27百万円 (2006年12月31日現在)
発行済株式の総数	10,421,985株 (2006年12月31日現在) (自己株式129,600株を含む)	株主数	7,020名 (2006年8月15日現在)

## [大株主]

株主名	所有株式数(株)	発行済株式数に対する所有株式数の割合(%)
エセックス・ウッドランズ・ヘルス・ベンチャーズ・ファンドVI・エルピー	11,703,704	11.5
タナベ・ホールディング・アメリカ・インク	10,000,000	9.8
ゴールドマン・サックス・インターナショナル	4,897,000	4.8
ジャフコG-(9) (A) 投資事業有限責任組合	3,759,000	3.7
イワキ・ファミリー・リミテッド・パートナーシップ	3,000,000	2.9

(2006年8月15日現在)



出来高はヘラクレス市場とNASDAQ市場の合計

# 会社の概況 (2006年12月31日現在)

- 商号: メディシノバ・インク
- 所在地: (本社) アメリカ合衆国カリフォルニア州サンディエゴ市スウィート950  
ラ・ホイヤー・ヴィレッジ・ドライブ4350  
(東京事務所) 東京都港区西新橋1丁目11番5号 新橋中央ビル5階
- 設立年月日: 2000年9月26日
- 純資産の部: 100,980,908米ドル (約120億円)
- 従業員数: 26名
- 主な事業内容: 医薬品の開発
- ホームページURL: <http://www.medicinova.jp>
- 関係会社: メディシノバリミテッド(ヨーロッパ) メディシノバ製薬株式会社<2007年1月4日設立>
- 法律顧問: Pillsbury Winthrop Shaw Pittman LLP (ピルズベリー・ウィンスロップ・ショー・ピットマン・エル・エル・ピー)
- 特許顧問: Foley & Lardner LLP (フォリー・アンド・ラードナー・エル・エル・ピー)
- 監査法人: Ernst & Young LLP (アーンスト・アンド・ヤング・エル・エル・ピー)
- 代理人氏名: 弁護士 梅津 立
- 代理人住所: 東京都港区六本木1丁目6番1号 泉ガーデンタワー アンダーソン・毛利・友常法律事務所
- 上場市場: 大阪証券取引所・ヘラクレス市場外国部 / 証券コード 4875  
NASDAQ・グローバルマーケット / 銘柄コード MNOV
- 取締役
  - 取締役 会長: 岩城裕一
  - 取締役: 長尾秀樹 (日本政策投資銀行 新産業創造部長)
  - 取締役: ジョン・ブレンダーガスト (サマー・クラウド・ベイ社 社長)
  - 取締役: ダニエル・ヴァブネック (カリフォルニア大学 サンタバーバラ校 助教授)
  - 取締役: ジェフ・ヒマワン (エセックス・ウッドランズ・ヘルス・ベンチャーズ社 マネージング・ディレクター)
  - 取締役: アーリーン・モーリス (アフィマックス社 社長兼CEO)
  - 取締役: アラン・ダントン (パナコスファーマスーティカル CEO)